

令和6年度第17回 教育委員会会議 会議録

- 1 日 時 令和7年1月14日（火）9：30～10：05
- 2 場 所 教育委員会会議室 ハーバーセンター4階
- 3 出席者 福本教育長
正司委員 今井委員 山下委員 本田委員（WEB） 吉井委員
- 4 欠席者 なし
- 5 傍聴者 0名（一般0名・報道0名／報道0社）
- 6 会議内容

（福本教育長）

それでは、教育委員会会議を始めます。

本日は、本田委員がリモートでの参加となります。

本日は、議案1件、協議事項3件、報告事項1件です。まず、非公開事項についてお諮りいたします。議題のうち、教第36号議案、協議事項46については、教育委員会会議規則第10条第1項第2号により、職員の人事に関する事。報告事項1については、同項第6号により、会議を公開することにより、教育行政の公正かつ適正な運営に著しい支障が生じるおそれのある事項であって、非公開とすることが適当であると認められるものとして非公開としたいと思いますが、御賛同いただけますでしょうか。

（賛同）

（福本教育長）

ありがとうございます。

それでは、議事に入ります。

協議事項44 今後の教育課程について

（福本教育長）

協議事項44、今後の教育課程について、事務局より説明をお願いします。

（鳥飼教科指導担当課長）

初等・中等教育における教育課程の基準等の在り方に関しまして、12月25日に中央教育審議会に諮問が出されました。その内容につきましては**参考1**、概要については**参考2**にまとめております。顕在化している今の課題として、主体的に学びに向かうことができている子供がいるということ。また、学習指導要領の理念や趣旨の浸透が十分ではない

ということや、デジタル学習基盤をもっと効果的に使うべきではないかということが挙げられております。これらに関しては、児童生徒の実態や学校の特色等にあわせて柔軟に教育課程を編成することが重要だと示されています。

参考2の2枚目に示されている、②多様な子供たちを包摂する教育課程の在り方というところで具体的に示されております。柔軟な教育課程の在り方につきましては、令和5年12月に多様性を包摂する柔軟な教育課程の編成が検討されるべきだ、と議論がされており、令和6年6月には主体的で対話的で深い学びを実現するためには柔軟な教育課程を実現していくべきだ、と論議されております。令和6年9月の論点整理の中において、教育課程編成等における教育委員会、学校の裁量拡大の在り方について触れられております。

参考2の②多様な子供たちを包摂する教育課程の在り方の中にも、「子供が学びを自己調整し、教材や方法を選択できる学習環境デザインの重要性」「教師に「余白」を生み」という言葉が出てきております。

1 ページの(2)②に戻りますが、学習指導要領等によらない柔軟な教育課程を編成する場合、現在は申請が必要になります。研究開発学校制度は次期学習指導要領に向けて実証的資料を得るための研究開発を行う制度であり、教育課程特例校制度は新しい教科を創出していく制度になります。授業時数特例校制度はそれぞれの教科の授業時数の10%を他の教科にも重ねることができる制度になりますが、どれも申請が必要な制度になります。

③では、目黒区の小学校が研究開発学校の指定を受け、午前中を5時間40分制として実施したことについて記載をしております。右側に研究開発が始まった当時の時程表を掲載しております。2. 現行学習指導要領の授業時間の考え方につきましては、小学校4年生以上は1,015コマ、中学校も同様に1,015コマを標準としますが、1単位時間は小学校で45分、中学校で50分ですので、総授業時間は小学校が45分×1,015コマで約761時間、中学校が50分×1,015コマで約845時間となります。

3. 他都市の取組ですが、(1)横浜市では特例校制度を適用せずに40分授業を1,015コマ実施し、プラス127コマで教科の授業を実施しております。ですので、総授業時数は標準授業時数と同じになります。(2)川西市でも同様の取組が行われております。

(3)東京都目黒区の小学校は研究開発学校であることから、40分授業を1,015コマ実施し、生み出した127コマは学校独自の教育活動に柔軟に充当しています。例えば算数、国語、理科、社会等の授業から生み出された5分を別のカリキュラムに充てる場合もあれば、算数、国語の補充に充てる場合もあります。また、教員研修のための時間に充て、子供を早く帰すといった取組もされております。同様の取組は滋賀県の愛荘町立秦荘西小学校でも実施されております。神戸市では行事や公開授業の際に5分程短縮する場合がありますが、単元の内容によって調整等を行っており、総授業時数は変わらない形になっております。

教育課程を柔軟にすることの意義やメリット、課題についてです。(1)意義やメリットとしては、40分や45分に短縮することで子供の集中力を高めることができます。また、

午前中に授業を集めることで、集中力の高い時間に学習ができるようになります。このほかにも、単元内容や児童生徒の実態に即して短めの授業や長めの授業等、弾力的な運用ができるようになるメリットがあります。また、研究開発校のみでできることとして、教員の負担軽減や生み出した時間を活用した児童生徒への個別指導、教材研究への活用等が可能になります。一方、課題としましては、授業を5分短縮すると授業時数が短くなりますので、学習指導要領に定められている質と内容を確保できるのかということを見定めていく必要があります。また、詰め込みであったり、授業後半の振り返りやまとめを行う大事な時間がカットされたりしないかという懸念がございます。このほかにも、生み出した時間を新たな何かに充てるということになると、児童や教員の負担が増すのではないかと懸念もございます。始まりの時間が早くなったり、休憩時間が短くなったりすることで児童や教員の時間的余裕がなくなり、忙しくなってしまうのではないかと懸念もございます。こういったこともあり、5分短縮授業とそれに伴うカリキュラム・マネジメントに関して次年度に研修を行っていきたいと考えております。5分短縮した授業で児童生徒の学力が維持できるよう、個別最適な学びと協働的な学びを充実させ、授業研究を一層進めていく必要があります。今後も国の動向を注視し、他都市の取組についても情報収集を進めていきたいと考えております。

(福本教育長)

最近、新聞等で見ることが多いと思いますが、5分短縮ということで、中学校でしたら50分を45分、小学校でしたら45分を40分に短縮するという話が出ています。教育課程に関して皆さんの御意見を聞いてみようということで説明させていただきました。他のことともリンクすることがあると思いますが、御意見をいただければと思います。御意見等ございますか。

(本田委員)

4. 意義やメリット、課題について他都市の情報は把握されておられますか。

(鳥飼教科指導担当課長)

目黒区ではメリットの一つに、授業が短いことを子供が喜んでいるということが挙げられていました。保護者の方々が懸念される学力低下や子供たちへの不利益ということに関しては、アンケート調査の中では肯定的な意見が多く、心配したけれども大丈夫だったという意見もあったようです。また、教員が40分の授業に慣れるかということに関しても、少し時間は要るけれどもそのうち慣れていくということでした。小学校で40分の授業を行い、中学校で短縮しなかった場合、10分の差ができますが、これに関して子供が困らないのかということに関しては、案外大丈夫だったということでした。もちろんしっかりとした準備や教育課程全般のバランスを取っていく必要がありますが、そういったことも踏ま

えた上で、メリットがあるということでした。

(吉井委員)

問題点や良い点が出てくることを踏まえた上で、様々なケースを実施し、次のステップに移すということで良いと思います。短縮授業は元々、主体的に学びに向かうことができない子供のための手段の一つとして、1コマの授業時間を短縮し、短縮した時間の127コマをより前向きなことに使いましょうということだったと思います。5. 今後についてのところに「カリキュラム・マネジメントについて検証を行う」とありますが、計画としてはどのようなことをお考えか教えていただきたいです。また、午後に1時限しかない6時限目はどういうことをするのか、お考えがあればお聞かせいただければと思います。

(鳥飼教科指導担当課長)

来年度はまだ学習指導要領改訂前になりますので、例えば算数の授業を45分から40分にし、5分生み出しても、その5分は算数に使う必要がございます。生み出した127コマについては、算数は算数の内容を補うことに使い、国語は国語の内容を補うことに使うことになります。算数の授業を8回で1単元を教える場合、8回分の内容に対して40分授業を8回行う場合もあれば、8回の授業で8割を行い、あとの2割は生み出した時間で授業するような考え方もできます。目黒区では、「学習タイム」のように20分、25分といった短い枠をうまく活用して、そこで補充しています。また、目黒区の学校は研究開発学校ですので、5分を総合的な学習に移し、探究的な学びをされています。同様の取組ができないかということは考えており、例えば社会科と総合的な学習の要素をうまく合わせて、環境的な学びに変えていくなどが考えられると思います。目黒区の取組が次の学習指導要領の手がかりになっていると思いますので、参考にしながら考えたいと思っています。

(吉井委員)

せっかく生み出される時間ですので、どのように上手く使うかということが非常に大事なことだと思います。目的に叶ったカリキュラムや、検証がきちんとできるような計画を組んでいただければと思っています。

(今井委員)

他都市ではどのぐらいの期間続けているのでしょうか。あるいは、導入したけれどもやめたという自治体があれば、その情報を分かる範囲で教えていただきたいです。また、40分授業についてですが、小学校は1年生と6年生でも大分違ってきます。低学年の場合は40分授業が良いと思いますが、高学年の場合はやはり中学校との差が気になります。先程の導入校では問題なかったという御意見があったということでしたが、中学校が今のまま50分授業で変わらないのであれば、10分の差は大きいように思います。中学校でのつまず

きに繋がらないかという不安がどうしてもあります。また、4. (2) 課題の中に出てきた休憩時間については、5分だと学校の施設的な面でトイレに行くのが遠かったり、移動教室が遠かったり、厳しい学校が出てくるのではないかという不安がありますので、その辺りも各校の実態を踏まえ、検証していただければと思っています。

(鳥飼教科指導担当課長)

休憩時間については、最近小学校でも5分にしている学校は割とあると思います。ただ、トイレに行く時間がないということにならないように、前の授業との調整を行っています。例えば、次の時間が音楽で移動がある場合は、前の授業を数分早めに終わって、トイレに必ず行けるようにしていると思います。目黒区は令和元年から5年間研究開発学校として指定されていて、今も延長されておりますが、様々な取組をされています。研究開発学校として指定される前から様々なことにチャレンジされていますが、40分授業を始めたがやめたというような学校はなく、更に増えていっているということです。また、今年からは中学校で45分授業を行う学校が1校出てきていると聞いています。

それから、高学年はもっと授業時間が長くても集中できるのではないかというお話ですが、今の授業のスタイルは子供が主体的に自分で選択して学んでいく形に変わっていきうとしていますので、集中力が保たれないということはあまり議論にならないのかもしれませんが。40分と40分を合わせて80分の授業として、その中で子供がもっと活動的に学ぶような場面も設定できるでしょうし、様々なバリエーションがこれから増えていくのではないかと考えています。中学校も授業スタイルが変わって行って、座っているだけの授業でなくなれば、退屈して10分がもたないというようなことはなくなってくるのではないかと思います。

(正司委員)

大学でも同じような話がありますが、その時に必ず議論になるのは、時間数とコマ数どちらが大切かということです。大学ではコマ数の方が大切ではないかという話が出ています。集中力のことを考えると、コマ数を確保すれば5分削っても実際に教える内容は変えずにできるのではないかというのが感覚としてあります。小学校や中学校で同じことは言えないかもしれませんが、授業時間の前後にも学習時間が入るはずですので、授業時間の5分の話だけを考えるのは良くないのではないかと思います。学習指導要領上は時間とコマ数が掛け算になっていますが、これを弾力化することに重点を置いてほしいと思います。5分短くするというのはあくまで手法であり、手法が目的にならないように気をつけてほしいと思います。目黒区のやり方も一つの方法だと思います。午前に5コマ、午後1コマではなくても、午前4コマ、午後2コマのままでも早く帰る形の時間割は組めるはずですので、様々なパターンを試していければ良いと思います。ただ、各校それぞれ都合が違うので、学校によっては合うや合わないがあるかもしれません。逆に言うと、学校に

適した形で時間割を組めるような、そういう実験をぜひ後押ししてあげてほしいと思います。その際には、休み時間の価値をどのように考えるのかということも併せて検証する必要があると思っています。中学校でも検証はするのでしょうか。

(鳥飼教科指導担当課長)

中学校でも検証したいと考えています。

(山下委員)

小学校の場合にしか通用しないかもしれませんが、例えば40分に短縮した授業を午前中に4コマ行い、給食を少し早めにとるということも可能でしょうか。あるいは、午前中5コマの方が良いのでしょうか。何故かと言いますと、少しお腹が減るかなと思いました。ただ、午後1コマの方が集中できるのではないかなと思います。記載いただいている横浜市の例ですと、学習タイムの設定もあるので、こういう形の方が望ましいのかなと思いますが、現段階でお考えのことや分かっていることがありましたら御紹介いただければと思います。

(鳥飼教科指導担当課長)

子供の実態にあわせるということが大事だと思いますので、午前5コマにこだわることなく、その学校のカリキュラムを設定していきたいと思います。午前を5コマにすると、必然的に朝の開始が早くなりますので、目黒区では12時半に給食の時間が始まっていますが、それが限界だと思います。それより給食の時間を後ろにするのは小学校では難しいと思いますので、休み時間の設定等と併せて考える必要があると思います。

(山下委員)

放課後の時間が少し増えるということなので、色々と大きな変化になっていくと思います。また検討や検証を進めていただければと思います。

(福本教育長)

資料に記載のある川西市に実際に関わっていましたので補足させていただきます。午前中に5コマ授業を行うことは学校にとっては大きな変更となりますが、先生の勤務形態が多様化していることに対応できることにもなります。朝だけ休む場合や昼から休む場合、育児短時間勤務を取得されている場合等に、教科を午前中で終わらせることができれば、授業の継続性が非常に高くなります。川西市が取り組んでいる理由はそこも大きいです。午前中に教科を終わらせて、昼からは学年やクラスの垣根を超えるような総合的な学習を行うなど、メリハリをつけることもできます。午前中に4コマ授業を行い、5時間目に教科があると、午前中だけの先生は授業の継続性が難しいことがあります。川西市の場合は

チーム担任制を導入していますので、先生が教科によって入れ替わって授業を進めていけるような形を取っています。横浜市や川西市が実施している形は、神戸市でも校長先生が取り入れたいと言えれば取り入れることは可能です。校長先生の裁量を増やしていこうということが大きな狙いとしてあり、その中の一つに授業時間を5分短縮するということがあります。裁量を増やしたから課題が解決するかというと、様々問題も出てきますが、一步を踏み出さなければいけません。次の学習指導要領の内容がどうなるのか見ている状態ですが、全部の学校が同じようなことをする必要のあるのかという問いかけを学校現場にしていく必要があると思っています。教育課程の問題だけではなく、総合的に考えていく必要がある問題だと思っています。そのきっかけとして、来年度以降こういう問題も出しながら学校に考えてもらおうと思っています。

ありがとうございます。

それでは、次の案件に参ります。

協議事項45 市立定時制高校について

(福本教育長)

協議事項45、市立定時制高校について、事務局より説明をお願いします。

(西山高校教育担当課長)

市立定時制高校は普通科が2校、工業科が1校で、摩耶兵庫高校にのみ昼と夜に学ぶ課程がございます。働きながら学ぶ学生が近年減少してきており、その代わりに不登校を経験した生徒や全日制を中途退学した生徒等が通ってきています。非常に多様化してきており、神戸市に限ったことではなく、全国的に同様の傾向がみられます。

また、夜間に入学する生徒は全体として減少傾向がございます。一方、摩耶兵庫高校の昼間部や県立西宮高校の1部・2部等日中に学ぶことができる定時制につきましても、ニーズが非常に高い状況にあり、変化してきている定時制の学びのニーズに今後どのように対応していくかということが課題となっております。

また、楠高校と湊川中学校が併置されております校舎が老朽化しており、中学・高校の教育環境の改善につきましても課題となっております。

(福本教育長)

なお、今後の方針に係る内容については、教育委員会会議規則第10条第1項第6号により、会議を公開することにより、教育行政の公正かつ適正な運営に著しい支障が生じるおそれのある事項であって、非公開とすることが適当であると認められるものとして、後程非公開の場で協議したいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(賛同)

(福本教育長)

では、今後の方針以外の部分について、御質問等ございましたらお願いします。

(正司委員)

建物の老朽化の話が出ていましたが、大体築何年でしょうか。

(西山高校教育担当課長)

おそらく竣工が昭和10年で、市内で2番目に古い校舎になっております。

(福本教育長)

他に御質問等ございますか。

よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

公開案件は以上となります。

教育委員の皆さんから教育委員会会議で取り上げるべき事項について御意見はございますか。

それでは、本日の公開案件を終了いたします。

閉会10時05分